

ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

しょっぱなから大喧嘩！それでも家族が手放せない理由
一触即発の日常から、 γ GTP正常化という「奇跡」まで

個人

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



はじめに

一本の連絡と、アルコールインターロックに辿り着くまで

今回の取付にあたって、最初にご連絡をくださったのは息子さんでした。お父様の度重なる飲酒問題や「残酒」での運転の危険性に深く悩まれていたお母様が、まずは息子さんに相談されたことがすべての発端です。息子さんがインターネット等で懸命に調べ、アルコールインターロック装置の存在を知ったことで、今回の導入へと繋がりました。ここで本記事に登場するご家族の構成をご紹介します。長年お酒を愛し、現在は79歳になられるお父様、そして日々の暮らしの中でその行動にハラハラしながらも寄り添い続けるお母様、さらにご両親の安全と健康を案じて装置の手配に奔走された息子さんという、温かくも強い絆で結ばれたご家族です。

取材開始5秒で激突！

「いつもの大喧嘩」から見えたリアルな葛藤

アルコールインターロック装置を導入したご家庭へ、ユーザーレポートの取材に伺いました。私たちがご自宅に足を踏み入れた瞬間、そこにあったのは、エンジニアに「インターロックの測定時間を20分にしてほしい」とお母様がお願いしたことで、お父様がむちゃくちゃ怒り出したという一幕でした。いつも喧嘩ばかりしている夫婦というわけではなく、お父様とお母様が衝突するのは、いつも「飲酒運転に関連すること」なのです。今日も今日とて、そんな切実な思いから声がリビングに響き渡ります。

お母様「測定時間を短くしてもらうんだから！」

お父様「何言ってるんだ！そんなことしたら壊すぞ！」

お母様「もういいい！息子に電話する！」

お父様「なんで息子に電話するんだ！」

お母様「だって飲んで運転するでしょ！なんでわからんの！」

飲酒運転がいけないってことを！」

(同席した私たちが思わずハラハラしてしまう程のすさまじい勢いでした)

一触即発の空気の中、まさに火花散るやり取りが繰り返されます。しかし驚くべきことに、この激しい衝突の数分後にはケロリと普段の様子に戻るのがこの家のお決まりのパターン。79歳のお父様と、事故の恐怖や将来への不安を抱えながら必死に向き合い続けるお母様の、あまりにもリアルな日常がそこにありました。



怒り狂って数分でケロリ。

お母様の絶妙なフォローが支える家庭の絆

激しい口論の最中であっても、お母様が決して「喧嘩をしたいわけではない」ということは、そのやり取りの端々から痛いほど伝わってきます。お母様にあるのは、ただ「これ以上、大切な家族に最悪の事態（飲酒運転による事故）を起こしてほしくない」という切実な願いだけです。お父様のこれまでの行動パターンや口癖も手に取るようにわかっているからこそ、どこでぶつかり、どう受け止めればいいのか分かっていらっしゃるのです。

お父様が少しはすれなボヤキや怒りをぶつけてきても、お母様はそれを真っ向から否定してこじらせるのではなく、巧みに受け流しながら「息子が装置をつけてくれた。本当に繰り返すから……」と、家族としての切実な苦労や本音を私たちにそっと明かしてくださいました。同じように身内の飲酒問題や終わりの見えない不安に直面しているご家族なら誰もが共感できる、「お互いを分かり合っているからこそそのリアルな距離感」がそこにあります。

お父様がどれだけ文句を言ったり「邪魔くさい」とこぼしたりしても、装置を取りはずす気は本人にも全くありません。怒り狂っては数分後に何事もなかったかのようにケロリと戻るお父様を、お母様が温かく（時には呆れながらも）見守り、絶妙に対応している姿こそが、この家庭の絆の形を物語っています。

「お酒やめたの？」医師も驚愕！ γGTPが劇的改善を遂げた瞬間

陰悪だった空気もつかの間、お父様がふと誇らしげに「これ見て」と取り出したのが、病院で取ってきたばかりの最新の血液検査の結果でした。そこに書かれていた数値を見て、取材陣に驚きと感動が広がります。

肝機能数値(γ GTP)の劇的改善

導入前はなんと200以上、あるいは時期によってはさらに高かったというrGTPの数値が、インターロック導入後の約5ヶ月間でみるみる低下。今回の検査結果では基準値内(115からさらに下がり、正常値へ)にまで収まっていました。

[illegible]

さらに印象的だったのは、その検査結果や日頃聞きたい内容をご自身でメモにまとめていらっしゃったお父様の姿です。お母様からも「ちゃんと伝えたら？」と優しく促されながら、メモを片手にしっかりと私たちへお話を伝えてくださいました。お父様が照れくさそうにメモを広げ、それを温かく見守るお母様とのやり取りからは、長年連れ添った夫婦ならではの絶妙な空気感と、お互いを思いやる深い絆が垣間見えます。

「病院の先生から『お酒やめたんですか?』ってびっくりされたんだよ」と、嬉しそうに、そして誇らしげに語るお父様。かかりつけの先生も、胃腸科の先生も、そして日赤での検査結果を見た先生も、皆その激変ぶりに驚きを隠せなかったといいます。そして何より、お父様のお酒の量がしっかりと減り、健康を取り戻している姿をそばで見守ってきたお母様も、心から嬉しそうな笑顔を浮かべていらっしゃいました。

かつては「2升は飲める」と言われ、お医者さんからアルコール外来を勧められても頑なに行かなかったお父様。しかし、息子さんが探し出してくれたアルコールインターロックによって「お酒を飲んだら車が絶対に動かない」という物理的な環境が強制された結果、自然と飲酒量が夜の焼酎100cc程度(お湯割り)へと減少し、見事な健康改善へと繋がりました。



MEMO

月 日 曜日

9/27 0.08
9/29 0.07
9/30 0.19
10/19 0.08
10/29 0.14
10/30 0.08
11/1 0.08 6:30 PM
11/17 自転車の中 空の容器
11/19 " 1杯酒の入った容器
11/25 0.14
11/26 0.13

インターロックを取付ける前は、毎回簡易チェッカーで測定をしていた

ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

個人

「この強制力が命を救った」

～同じ飲酒・事故の悩みを抱える方へ送るメッセージ～

お母様がいない昼間の時間帯にお父様がお酒を飲まれていることは、日頃からご家族の間でも分かっていたことであり、装置の測定ログを確認しても、実際に飲酒検知によってエンジンが始動しなかった履歴がしっかりと残っていました。

「ほんの少しの距離だから」「これくらいなら大丈夫」——そう思って車を動かしてしまうお父様の油断。しかし、お母様の胸中には常に拭えない恐怖がありました。「違うんだよ！近所には保育園だってあるし、お年寄りや子どもたちも歩いている。もし万が一、人をひいてしまったら……」その取り返しのつかない悲劇を想像するたび、何とかしなければという強い思いに駆られていました。

「本当は楽しみを奪ってはいけないかもしれないけれど、事故があったら取り返しがつかない」——そう語るお母様の願いは、ただ一つ「安全に、元気に長生きしてほしい」ということだけです。そして、そんなお母様が折れそうになる心を支え、強い気持ちで向き合い続けられた背景には、親身になって装置を探し、寄り添ってくれた息子さんの存在がありました。息子さんがいてくれるからこそ、お母様もぶれずに前を向くことができています。

装置の測定時間が少し長いといった現場のリアルな不満や、時にはリビングに響き渡るほどの激しい夫婦喧嘩が勃発しながらも、結果としてお父様のお命を守り、肝臓の数値を正常値に戻し、「これからも元気に楽しく過ごす」ための強力な支えとなっています。

同じように身内の飲酒や「残酒」での運転、そしてお酒にまつわるトラブルに頭を悩ませている方にこそ、この「強制力と安心のバランス」が生み出す確かな効果が伝われば幸いです。お父様の誇らしげな笑顔と、それを支えるお母様と息子さんの温かい眼差しが、何よりもその価値を証明している、忘れられない取材となりました。



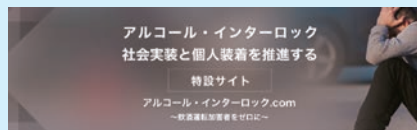
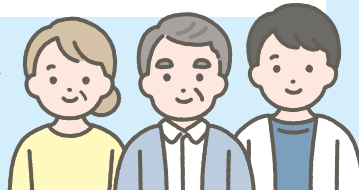
※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

編集後記：包み隠さない日常の向こうに見えたもの

隠すことなく、私たちの目の前で激しくぶつかり合われたご夫婦の姿に、飲酒運転に悩まれているご家族の本当のリアルを見せられました。取材の終盤、お父様が先に席を立ち、病院に診察券を入れてくるために愛用の軽トラを走らせる場面がありました。さっそうとアルコールインターロックで測定を済ませ、いつものように病院へ向かわれるお父様。その背中を見送りながら、帰り道にエンジニアと「最初から最後まで喧嘩勃発だったね！」と苦笑い交じりに振り返りました。するとエンジニアはこう語ってくれました。「こういうご家庭は本当に多いんですよ。でも、装置を取り付けることを本人が拒まないのは、『本当は飲酒運転をしたくない』という気持ちがあるからこそなんでしょうね」と。その言葉に、この装置が持つ本質的な価値の深さを改めて実感させられました。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、
アルコール・インターロックを
導入されたSさんご一家



東海電子WEBサイト
【アルコール・インターロック.com】
<https://alcohol-interlock.com/>

LINE公式アカウント

大切な人の飲酒運転で悩まれていたら…
いつでもLINEで
ご相談ください！

@700xyfip

